

中国福祉用具考察

安全な使用法を

中国における高齢者人口は既に日本の総人口を

超え、さらに増え続けている高齢者に対して福祉用具の需要は徐々に高まってきています。

とはいえ流通状況を見てみると、介護先進国では約3万種類が流通している一方、中国では2千種類にも満たず、また利用状況においても介護先進国とはまだまだ比較にならないほど浸透していない状況です。

これには利用者に対する経済的負担軽減や利用促進を目的とした政策上の不備、また、福祉用具に関する職員の専門知識

や利用価値観の創造欠如が主な理由にあると私は思います。

このような現状から弊社が出来ることとして、上海での研修項目の中に福祉用具の正しい使い方や良さを伝えるための研修や、そこで取り上げた福祉用具を施設で使用して頂くことなどを実施しています。

実際に研修中や施設の現場でよく見る光景として、例えば車イス利用に際し、移乗や走行時に適切な位置に車イスを設置出来ず、介護者・介助者共に身体などへ負担を掛けてしまっている介助や、フットレストの正しい位置調整が出来ない為

種類は介護先進国の10分の1以下

に膝が曲がり過ぎたり、地に足がつかないなかつたり、また、ブレイキの掛け忘れのため、移乗時に危険な場面も多く見られます。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール

ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

見たという介護者も見受けられました。

私達は、一人でも多く

このように、本来ならば正しい利用方法を理解しているはずの介護者が、正しい指導を受けていないため、安全で安楽な福祉用具がとても危険な物となっている場合が多々あります。やはり良さも分からず、ただ使っているだけの状態では上

の介護従事者に福祉用具の正しい使い方や良さを伝え、普及がより加速するよう、本当に利用価値のある物は購入し、その情報を瞬時に拡散するという中国の方々の特性を上手く活かしながら、研修を続けて行こうと思っています。